



レインボー埼玉周辺の一般道路を走行して行われた添乗指導。参加者は交代で運転し、最後に各々の運転に対する講評を行った



社内ライセンス取得者への添乗指導は原則的に、2年に1回行うことになっているが、それ以上実施している安全運転指導員もいるそうだ。新号さんは「職場での安全運転をリードできる人材を、これからも育てていきたい」と言う。

# TRAFFIC ADVICE [東京ガス(株)・安全運転指導員新規養成教育]

★交通安全活動をサポートする

2月1日、2日の両日、交通安全教育センターレインボー埼玉(以下、レインボー埼玉)で、東京ガス(株)(本社・東京都港区)の安全運転指導員新規養成教育が行われた。同社では、業務で車両を運転する場合は社内ライセンスの取得が必要になっており、レインボー埼玉で取得試験を行っている(取得者約5000名)。さらに、安全運転指導員約450名が各職場に配置されている。安全運転指導員は各事業本部長から任命され、その役割は社内ライセンス取得試験をめざす社員や、すでに取得した社員への添乗による安全運転指導である。今回の研修には、5月から新たに安全運転指導員として任命される予定の21名が参加した。「この研修は運転技術を向上させることが目的ではありません。職場で添乗指導を行う際、相手が理解しやすく納得できる教え方を身につけてもらうことがねらいです」と東京ガス(株) 人事部安全健康・福利室の新号正儀さんは話す。

1日目の午前は、レインボー埼玉のコース内で狭路走行と車庫入れ・縦列駐車。2人1組でクルマに乗車し、交互に運転を行い、運転者の安全確認のポイントを把握する。トレーニングの合間にインストラクターが「狭路で切り返しが必要な時は、必ず一度止まって周囲の安全確認をした後に」



狭路走行では切り返しをするためにバックする際の安全確認のポイントをインストラクターがアドバイス



研修では飲酒体験ゴーグルをかけて、酔った状態の疑似体験も行われた

バックを開始するように指導してください。また、バックの時もミラーしか見ていない人には、自分の目でも安全確認をするように伝えましょう」と指導をする際のポイントをアドバイスした。

午後はレインボー埼玉周辺の一般道路を走行して、添乗指導のトレーニング。まず、インストラクターが一般ドライバーの運転を再現。それをクルマの中(クルマに同乗)と外(クルマを追従)から観察し、講評する。「左折の時に左端にクルマを寄せていなかった」「ポンピングブレーキを使っていなかった」「障害物を避ける時にウィンカーを出していなかった」などの指摘があった。

インストラクターは「講評する場合は、相手の運転の中で良かったところをまずほめてあげましょう。そうすることで、できていなかった部分に対するアドバイスを素直に受け入れてくれます」と、相手に話を聞く姿勢をとってもらうことの重要性を参加者に解説した。この後、参加者が交代で同じコースを走行し、各々の運転を講評し合った。

## NEWS REVIEW

### ●ホンダ輸送グループ安全協議会年間無事故表彰式 輸送の現場から「交通事故『ゼロ』を目指す」

2月13日、日本青年館(東京都新宿区)にてホンダ輸送グループ安全協議会の「平成18年度年間無事故表彰式」が開催された。同協議会は、本田技研工業(株)の製品輸送業務に携わる日本梱包運輸倉庫(株)、ホンダ運送(株)、(株)ホンダロジスティクスとの3社で構成され、「プロドライバーとして模範となるマナーと技術のレベルアップで交通社会を先導する」をスローガンに掲げ、目標を「ホンダ輸送グループとその協力会社が一体となって交通事故『ゼロ』を目指す」に設定し、教育・指導・広報活動を行い、安全運転の啓蒙と意識高揚を図っている。



毎年、同協議会は無事故の会社を対象に表彰し、複数の会社が無事故の場合は1車当たりの無事故走行キロ数の長い会社を1位としている。今年度は、(株)ホンダロジスティクスが1位に選ばれ、吉見幹雄・本田技研工業(株)専務取締役 安全運転普及本部本部長から石田良紀・(株)ホンダロジスティクス代表取締役社長に年間優勝杯が授与された。表彰後、吉見専務が「今後も限りなく加害、被害ともに交通事故ゼロをめざした活動を展開していただきたい」と祝辞を述べた。また、石田社長は「輸送の現場に出向き、ドライバーとのコミュニケーションを通して、知恵を出し合いながら、安全運転をより確実に定着させる活動に取り組んでいきたい」と抱負を語った。

## SAFETY REPO

交通安全活動を広げる

### ●柳河精機(株) 安全意識は当たり前のことをきちんと守ることで身につく

柳河精機(株)(本社・東京都府中市)は四輪車のトランスミッション等を製造している会社である。同社の交通安全活動は狭山工場(埼玉県)、亀山工場、鈴鹿工場(いずれも三重県)、テクニカルセンター(栃木県)の各事業所が主体となっており、同社の交通安全対策を統括する管理本部総務担当取締役・村木克明さんは「従業員への交通安全活動は、クルマの製造に携わる企業として当然のこと」と言う。

すべての事業所で実施している取り組みの1つは通勤時間帯のシートベルト着用チェック。定期的に従業員用駐車場の入り口付近で、シートベルトを着用しているかどうかを確認するというもの。長年、継続した成果で着用率は100%をキープしているそうだ。また、部署単位で忘年会等を開催する際には、幹事が参加者に「私たちは飲酒運転を絶対にしません」という誓約書にサインしてもらい、所属長へ提出することが義務づけられている。「自分が飲酒運転をしないと宣言し、それを参加者全員で共有すること、飲酒運転防止が徹底できています。当たり前のことをきちんと守る意識を持つてもらったことが事故防止には重要です」と村木さんは話す。

山工場の登校途中の小学生を事故から守る活動がある。工場の正門前の交差点には信号機が設置されていない。そのため、小学生たちと通動する従業員のクルマが事故を起こさないように20年以上前から毎朝、交通整理が続けられている。

栃木県にあるテクニカルセンターでは、同じ工業団地の会社が協同で作る芳賀町工業団地連絡協議会を通じて活動を行っている。同協議会の交通安全防犯部会では地域の方々の安全を守ることを目的に年4回、従業員が街頭に立ち、通行中のドライバーに安全運転を啓発するビラを配布している。また、毎年1回、テクニカルセンターの従業員2名をアクティブセーフティトレーニングパークもてぎに派遣し、危険回避を中心としたトレーニングも行っているという。

「近年では従業員による交通事故は、ほとんど起きていません。各事業所での継続的な取り組みもあり、従業員に安全意識が浸透しているのだと思います」と村木さんは力強く語った。



## 活動短信 ●交通安全センター 2月

アクティビティセンターレインボー埼玉  
TEL:049-299-4111

交通安全センターレインボー和光  
TEL:049-467-1101

交通安全センターレインボー埼玉  
TEL:049-299-4111

交通安全センターレインボー和光  
TEL:049-467-1101

交通安全センターレインボー和光  
TEL:049-467-1101

交通安全センターレインボー和光  
TEL:049-467-1101

交通安全センターレインボー和光  
TEL:049-467-1101

交通安全センターレインボー和光  
TEL:049-467-1101

交通安全センターレインボー和光  
TEL:049-467-1101

交通安全センターレインボー和光  
TEL:049-467-1101

交通安全センターレインボー和光  
TEL:049-467-1101